



# けんびょういん

No.16

岐阜県立多治見病院 平成19年4月1日発行 第16号  
ホームページアドレス [http://www.pref.gifu.lg.jp/pref/tajimi\\_hospital/](http://www.pref.gifu.lg.jp/pref/tajimi_hospital/)

発行責任者／舟橋 啓臣  
編集／岐阜県立多治見病院広報委員会

## 病院の基本理念

基本理念 「安全で、やさしく、あたたかい医療に努めます。」

### 行動指針

1. 分かりやすい言葉で、分かりやすく説明します。
2. 安全を何度も確認することを怠りません。
3. 常に高度先進医療を取り入れ、進化を目指し自己研鑽に努めます。
4. 倫理観に基づく医療人としての誇りと自覚をもって取り組みます。
5. 健全経営に努めます。

## 患者様の権利と責任

県立多治見病院では、患者様中心の医療を提供するため、患者様との協調関係を大切にしています。

### 患者様の権利

皆様が平等に、安全で最良の医療を受けることができます。ご自身の病気や治療について、納得できるまで説明を受けることができます。ご自身の治療内容について、治療方法を選択又は拒否することができます。ご自身の診療に関わる全ての情報の開示を求めることができます。セカンドオピニオン（別の医療機関、他の医師の意見）をいつでも求めることができます。個人情報保護され、プライバシーは尊重されます。

### 患者様の責任

ご自身の病気の情報を可能な限り正確にお伝えください。医療スタッフの指示に従い、療養に専念してください。他の患者様の迷惑にならないようご配慮ください。臨床研修施設として研修医、実習生が医療参加することをご理解ください。



## 新しい年度の始まりに寄せて

新しい年度が始まり、私の院長業務も3年目に入ります。あつという間の2年でした。院長になって病院内・外の会合や委員会などに出席する機会が増え、種々の知識を得るに当たって、東濃地区の医療の根幹は県立多治見病院が担っている

ということ、それだけ我々には大きな責任と誇りを持つべきであること、などを益々強く感じるようになりました。産科医、小児科医、精神科医などの医師不足については、東濃地域全体の問題として、これからも強く関わり続けなければなりませんし、看護師不足にも何とかして対応していかなければなりません。これらは待ったなしの対応が迫られており、今年度も関係各位の協力を仰ぎつつ、少しでも改善に向けて前進する覚悟でおります。

最近、院長の役目として最も大切なことは、職員の勤務環境を整えることにあると、強く意識するようになりました。このことが職員の勤務意欲の向上に繋がるし、そこから優しく温かい医療が生まれると考えるのです。心にとりを持った医療は安全であり、同時に信頼関係の構築を容易にします。すなわち、東濃地域医療のかなめとしての県立多治見病院が、その役割を果たすことができる最も大きな原動力となるのは職員のチームワークだと思います。皆で心を一つにして、助け合い、励ましあって力を合わせれば、我々に課せられた大きな使命を必ず果たすことができ、地域の人からも信頼されるものと信じています。

院長 舟橋 啓臣

# 看護部特集

「いつでもどこでも安心を！」 「笑顔で十分な説明」で患者様を応援します。



チームワークを大切にします

私たち看護師一同「いつでもどこでも安心を！」を合い言葉に、良質の医療サービスを提供できるように努力しています。一般に看護師という職種で入院患者様を看護するイメージがありますが、今回はその他の活動をご紹介します。

## 医療連携室の活動



医療連携室では、地域との連携によってよりよい医療サービスを提供できるよう活動しています。地域の医療機関からのFAXによる診療予約や、MRIなどの高度医療機器の検査予約を受け付けています。

その他に、総合案内内のご案内や、電話による受診科相談を行っています。地域がん診療連携拠点病院として『がんに関する相談支援』の窓口も開いています。

また、退院のお手伝いをする退院調整活動をしています。退院後も安心して在宅・施設で療養できるよう支援させていただきます。

医師・看護師・メディカルソーシャルワーカーがチームを組んでがんばっています。

## 救急外来の活動



当院では重症な救急患者を対象とした三次救急医療を行っています。専門科の医師を中心に看護師が24時間勤務しています。

救急車の出勤要請がされたときから救急隊と病院との連携がはじまります。救急隊員からの情報をもとに、私たちは万全の受け入れ準備をして救急車の到着を待ちます。到着後は直ちに全身状態を把握し、症状に応じてレントゲン検査等を行います。状態によっては、さらに専門の検査・治療室へ移動します。入院の場合は救命救急センターや病棟と調整し体制を整えます。

命を問わず大変な職場ですが、誇りをもってがんばっています。



救命救急センター

看護師の役割は専門化・多様化しています。チーム医療の中心を担うことができるように「笑顔で、十分な説明」をモットーに、地域の皆様のご期待にそえられるようがんばります。



## 看護師さん募集



東濃地区の基幹病院で資格を生かしてみませんか。私たちと一緒に働いていただける看護師さんを随時募集しています。

趣味を生かしたり、思いやりを実行したい方はぜひご連絡ください。

県立多治見病院 看護部  
電話 0572 - 22 - 2371 内線 (302・303)



いつも笑顔を忘れません



# PET/CT装置 2007年4月稼動 中央放射線部

がんなどの発見・早期治療のため、最新鋭のPET/CT装置を東濃地方で初めて導入しました。今年1月に導入したSCTのMR装置とともに、地域の医療機関の診療支援に広く活用いただきたいと思います。

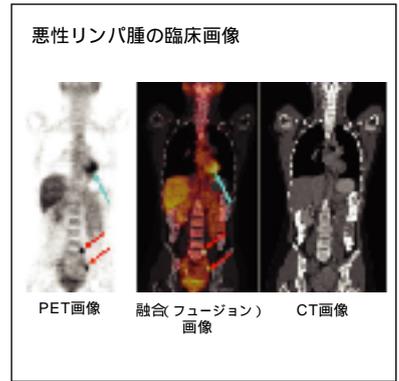


## PET/CT検査とは

PETとはPositron Emission Tomography (陽電子放出断層撮影)の略です。PET検査では、がん細胞の糖代謝が正常細胞に比べて活発である性質を利用し、ブドウ糖の代謝をみるFDGという薬を投与し、その体内分布を画像化してがんの診断をします。

PET/CT検査では、形態を見るCT画像とPET画像を同時に撮影し重ね合わせる事ができます。

中段右の画像は、悪性リンパ腫の臨床画像(赤い矢印の部分)です。CT画像では病変がやや分かりにくいのですが、PET画像ではよく分かれます。CT画像とPET画像を融合させることにより、病変の解剖学的位置関係を正確に把握することができます。



## 優れた画像診断のPET/CT検査

当院に導入されるPET/CT装置は、CT部には被爆の少ない高性能な装置を採用し、PET部には高感度で、細部まで観察できる素子を採用しており、高画質な画像を得られます。撮影範囲は90cmと大きく、全身の検査を1回の撮影で行うことができます。検査台移動にはリニアモーターを採用しており、PET画像とCT画像の位置ズレが極めて少ないことが特徴です。

そのため、これまでの検査では発見が難しかったがんの位置や形、広がりを高精度に確認できます。

**PET/CT検査のメリット**  
安全でほとんど苦痛なし  
検査中に動くことはできませんが、痛みや苦痛はほとんどありません。

また、検査薬による微量の放射線被ばくがありますが、人体にはほとんど問題がありません。

一度の検査で全身チェック



臓器ごとではなく一度にほぼ全身を検査することが可能です。がんの転移や再発の診断に有効です。

**短時間で検査終了**  
検査薬を注射してから1時間の安静後、検査台に30分間横になっていただくだけです。受付から終了まで約2〜3時間と短時間です。

## PET/CT検査利用上の注意

腫瘍の種類によっては診断が困難な場合や、5mm以下の微小ながんは診断できない場合があります。また、健康保険適用疾患、保険適用となる条件が定められていますので医師とご相談ください。

PET/CT検査は、近隣病院・診療所を受診されている患者様も医療連携室を通じて予約可能です。

医療連携室		
0572 22 5311		
(内線488)		
0572 22 7948		
(直通)		

## ICMTの資格を取得しました

臨床検査部 松川 洋子

ICMTとは感染制御認定臨床微生物検査技師 (Infection Control Microbiological Technologist) のことです。ICMTは、良質な微生物検査業務をおし院内の感染症や耐性菌 (MRSAなど) の状況を把握する能力を認定されるとともに、院内の感染防止対策活動に幅広く寄与することが求められます。現在、全国の認定取得者は253名です。

院内感染対策チームの一員として他のメンバーと協力して、患者様の安心な療養環境を創るため、調査・啓発・防止活動に取り組んでいます。



# 病院機能評価 Ver.5.0の認定を取得しました

当院では、(財)日本医療機能評価機構が実施している病院機能評価を受審し、平成18年12月18日に無条件で認定されました。



院内サーベイヤー  
耳鼻咽喉科部長  
上田 幸夫



現在までに全国の2299の病院が評価を受けています。

## 2 病院機能評価 Ver.5.0とは

当院では平成14年3月に「Ver.3.1」の認定を受けていますが、今回の「Ver.5.0」は審査の評価項目が500項目以上もあり、無条件で合格する事は厳しいとされています。その審査分野は次の7領域で構成されています。

- ① 病院の運営と地域における役割
- ② 患者の権利と安全確保の体制
- ③ 療養環境と患者サービス
- ④ 医療提供の組織と運営
- ⑤ 医療の質と安全のためのケアプロセス
- ⑥ 病院運営管理の合理性
- ⑦ 精神科に特有な病院機能

## 1 (財)日本医療機能評価機構とは

国民が適切で高度な医療を安心して受けられるよう、医療に対する信頼と質の向上を図るために医療機関の機能を学術的観点から中立的な立場で評価し、その結果明らかになった問題点の改善を支援する第三者機関として厚労省、日本医師会、日本看護協会などが出資して平成7年に設立されました。



病院からの説明

## 3 当院の取り組み

平成17年7月に委員会を開催し、審査に向けて対応方針を検討・指示を開始しました。

接遇委員会、NICU運営委員会などの新規委員会の設置、各部門・部署において基準・手順・マニュアルの見直し、改善、病院基本理念及び行動指針の見直し、職員スローガンを設定しその周知徹底をはかりました。

平成18年4月17日に副院長3名を中心に6名の院内サーベイヤーチームを発出し本格的に他院の訪問、院内研修講演会、手順・マニュアルの見直し、施設の改修、「病院クリーンアップ作戦」の実施、模擬審査の実施、評価項目の内容の確認を実施しました。

具体的には、院内の掲示物の整理と見直し、受動喫煙防止のため喫煙所の移設、各科外来の中待合の廃止、救急外来、小児科外来の改修など患者のプライバシー保護に向けた対策強化などを実施してきました。

結果として、厳しい審査を無条件で合格しました。その最大の理由は病院の全ての職員がこの機能評価の認定を受けるのだという意識が盛り上がったためです。そして電子カルテが導入された事も機能評価にはプラスになりました。

## 4 機能評価の効用と利点

現状の客観的把握 体系的な審査により改善すべき問題点が明確になりました。第三者からの指摘により各職員が問題点に共通した認識をもつ事ができ、自覚と改善意欲が醸成されました。



書類審査

## 5 機能評価の認定を受けて

岐阜県内では昨年末までに32病院が参加し、Ver.5.0認定取得病院は当院も含めて5箇所。国公立では岐阜大学医学部附属病院について2番目でした。認定証のシンボルマークは中央の十字が病院や医療全般、取り囲む円が病院に対する評価と信頼を表しています。この評価を受けたことで、患者さんには安心感・信頼感を持つていただき、職員は自分の病院に対する誇りと自信、モラルの向上が期待されます。今後もこれを維持し発展させるよう職員一同自覚を持って努力をしていきます。



サーベイヤーの講評

# 形成外科について紹介します

## 形成外科の具体的な治療対象疾患

- ①熱傷
  - ②顔面骨折・顔面軟部組織損傷
  - ③唇裂・口蓋裂
  - ④手・足の先天異常・外傷
  - ⑤その他の先天異常
  - ⑥母斑・血管腫などの良性腫瘍
  - ⑦悪性腫瘍およびそれに関連する再建
  - ⑧瘢痕拘縮・ケロイド
  - ⑨褥瘡・難治性潰瘍
  - ⑩その他
- の10分野です。

日本形成外科学会のホームページ

<http://www.jsprs.or.jp/index.htm>

ホームページにはさらに詳しい説明がありますのでご参照ください。

形成外科には大別して二つの専門領域があります。一つは、組織の変形や欠損などの「疾患」を治療対象とする「再建外科」であり、もう一つは、疾患とは言えないけれど、ご自身が気にしている微妙な形状を治療対象とする「美容外科」です。当院では、二重手術やしみ・しわ取り、入れ墨除去などの「美容外科」の分野は行っておりませんが、形成外科は、全身のあらゆる部位の形態変化を治療対象としていますので、他の診療科と多

く境界領域を持つています。整形外科との違いは、整形外科は、首から下の筋肉・腱・骨などを取り扱いますが、形成外科は、頭から足の先まで身体全体の部位の皮膚・筋肉・一部の骨などを取り扱います。頭の骨は脳外科や形成外科が、顔の骨は形成外科が取り扱います。

形成外科医長 加藤 久和



竹中医師

加藤医長

伊藤看護師

## お知らせ

精神科は、常勤医師の減少により、外来診療は引き続き行いますが、入院受け入れができなくなりました。

また、腎臓内科は、常勤医師の退職により外来のみ曜日を限定して診療を行います。

皆様にはご迷惑をおかけすることになり申し訳ありません。ご理解いただきますようお願い申し上げます。

### 診療科の新設と名称変更を行いました

新設	放射線腫瘍科
変更	膠原病・リウマチ科 → 膠原病リウマチ内科
	呼吸器科 → 呼吸器内科
	消化器科 → 消化器内科
	循環器科 → 循環器内科

### 編集後記

岐阜県立多治見病院広報誌第16号をお届けします。春を迎え、日に日に暖かくなり、明るい時間が延びてきました。年度替わりは別れと出会いの時期です。当院でも多くの職員が異動しました。顔ぶれが変わっても、県立多治見病院は、病院機能評価の認定を糧とし、常に進化を目指して「安全で、やさしく、あたたかい医療」の提供に努めます。新病棟建設は、実施設計の7月完成にむけて進めております。今後の紙面でご紹介していきます。ご意見、ご要望がありましたらどうぞお寄せください。お待ちしております。

岐阜県立多治見病院 広報委員会  
TEL 0572-22-5311(内線211)  
〒507-8522  
多治見市前畑町5丁目161番地  
E-mail c22602@pref.gifu.lg.jp

### 3月末で退職・転出した医師

副院長	後藤 和夫
外科部長	酒向 猛
循環器科	村井 俊介
腎臓内科	坂 洋祐
呼吸器科	有賀 俊二
内分泌内科	金山 祐子
精神科	高林 功
精神科	高橋 ゆき子
精神科	前田 貴生
精神科	山田 智子
新生児科	岩城 利允
整形外科	洪 永杓
麻酔科	高柳 猛彦
放射線科	加藤 加代子
地域医療部	今井 奨

### 4月新規赴任医師

放射線科部長	小山 一之
消化器内科	西江 裕忠
消化器内科	藤島 昭彦
循環器内科	藤巻 哲夫
呼吸器内科	高野 裕子
内分泌内科	田口 晴子
内分泌内科	伊藤 竜男
神経内科	堀部 賢太郎
外科	市川 俊介
麻酔科	南 仁哲
麻酔科	松本 卓也
地域医療部	多田 将士
地域医療部	柘植 智

# 外来診療表

平成19年4月1日現在

診療科目	初診・再診別	月	火	水	木	金	
内科	消化器初診	内藤	佐野	坂	戸川	秋田	
	再診	消化器	秋田	宮部	戸川	西江	山下
			佐野	上野	吉村	坂	内藤
			麥島		夏目		
	初・再診	循環器	日比野	藤巻	加藤	日比野	小栗
		膠原病 リウマチ	加藤	横井	吉田	横井	矢島
	再診	腎臓内科	—	加藤	—	浦濱	—
		血液内科	花村	徳山 <small>第1・3・5</small>	新美	花村	岩井
	初診 再診	内分泌内科	出口	伊藤	出口	—	伊藤
		呼吸器	福田	森	村松	國井	高野
神経内科	初診・再診	榎田	亀山	榎田	堀部	中藪	
	再診	亀山	中藪	亀山	中藪	亀山	
整形外科	初診	1・3・5週	水野	高津	伊藤	高津	山本
		2・4週	山本	小林	岩田	門野	小林
	再診		水野	高津	伊藤	高津	山本
			小林	門野	岩田	小林	門野
	厚生相談		門野	伊藤	水野	伊藤	高津
			山本	山本	小林	岩田	水野
形成外科	初診・再診	竹中	竹中	加藤	加藤	竹中	
眼科	初診・再診	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木	
		高橋	高橋	高橋	高橋	高橋	
放射線科	初診・再診	浅野	小山	浅野	小山	浅野	
女性外来	初診・再診	—	—	—	—	午前のみ 松下	

1

階

診療科目	初診・再診別	月	火	水	木	金	
精神科	初再診	太田	廣江	太田	曾根	新畑	
	再診	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木	
小児科 新生児科	初診・再診		中野	荒川	浜田	中野	
			小久保	中島	立木	荒川	立木
	特別外来		浜田	佐々	向井	中島	向井
			[心臓] 荒川	[相談] 中野	[相談] 中野	[心臓] 水野	[神経] 濱口
午後 特別外来		[1ヶ月] 診察 向井	[心臓] 荒川 [内分泌] 立木	[川崎病] 中野 [腎臓] 浜田 [アレルギー] 小久保	[相談] 中野 [免疫] 中島	[乳児] 小久保 荒川 立木 第1・3週 向井 浜田 中島 第2・4週	
		[1ヶ月] 診察 佐々					
外科 消化器外科	初診・再診	末岡 小西 野垣	園原 原田	小西 伊藤	市川	野垣 伊藤	
	乳腺内分泌 科	初診・再診	野垣	大野	—	末岡 (再診) 舟橋	
心臓血管外科	初診・再診	—	—	徳田 午後宋	—	—	
呼吸器外科	初診・再診	伊藤	—	—	—	伊藤	
脳神経外科	初診・再診	西澤 島戸	伊藤	西澤	伊藤	島戸	
麻酔科	初診・再診	間淵	山崎	稲垣	山田	宮津・南・松本	
皮膚科	初診・再診		横田	横田	横田	横田	
			福本	福本	福本	福本	
泌尿器科	初診・再診	高士	桃井	高士	—	桃井	
産婦人科	初診	竹田	中村	三井	森	境	
	再診	婦人	中村	三井	竹田	—	
耳鼻咽喉科	初診・再診	富田	伊藤	上田	伊藤	富田	
	再診	上田	富田	伊藤	上田	伊藤	
歯科 口腔外科	初診・再診	佐藤	堀田	大隅	佐藤	大隅	
	再診	大隅	大隅	佐藤	大隅	佐藤	
		堀田	佐藤	堀田	堀田	堀田	

2

階

診療開始時間 午前9時～(診療科によっては午前8時30分～)  
休診日 土・日・祝祭日、及び年末年始(12月29日～1月3日)

※予約のない方の診療受付時間 初診・再診 午前8時30分～午前11時まで。  
※各診療科目担当医師については、都合により代診させていただく場合があります。また、異動により担当医師が変更する場合があります。  
※救急診療については、救急外来受付(内線511)まで、お問い合わせください。  
※女性外来の予約は、医療連携室(内線487)へご連絡ください。

## 外来診療の電話予約について

混雑緩和と利便性向上のため外来診療は予約制としております。継続して診療を受けておられる患者様には、診察時に次回の予約をしていただきます。予約を保留された場合やしばらく受診のない場合は、電話予約のうえ来院ください。

予約専用電話 0572-21-2200

電話予約受付時間 当日の予約(平日) 8:30～11:00  
翌日以降の予約(平日) 13:30～16:30

診察券の患者番号をお知らせください。  
診察券のない初診患者様は、電話での予約はできません。  
診療機関からの紹介患者様については、診療機関から当院医療連携室へご連絡ください。

## 初診患者様のFAX予約について

当院の受診歴のない方でも、次の項目をFAXしていただければ予約できます。

- ①氏名(漢字とフリガナ) ②性別 ③生年月日 ④住所と郵便番号
- ⑤電話番号(折り返し連絡する電話が別の場合はその電話番号も)
- ⑥健康保険の種類・保険者名・記号・番号 ⑦受診希望診療科名 ⑧受診希望日時

初診予約用FAX 0572-22-7948

折り返し電話予約センターから電話を入れます。ただし、電話予約受付開始から1時間程度は予約電話が混雑するため、すぐにご連絡できない場合があります。また、電話予約受付時間以外の時間帯にFAXされた場合は、ご連絡が次の電話予約受付時間内になります。FAXで予約された場合でも、初めてご来院されたときに診療申込書の記入と保険証の提示が必要です。



環境にやさしい古紙100%の再生紙と大豆油インキを使用しています

この広報紙「けんびょういん」は当病院ホームページでもご覧頂けます。  
URL [http://www.pref.gifu.lg.jp/pref/tajimi\\_hospital/](http://www.pref.gifu.lg.jp/pref/tajimi_hospital/)